

<空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！> 2022.1.22

JAL闘争を支える京都の会 News No.80

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

伏見・大手筋商店街でも訴え JALの団交拒否に抗議する！

1月18日、JAL 165名を解雇したJAL稻盛和夫会長（当時：現在JAL名誉顧問）の地元の大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ「ユニオンネットワーク京都」に結集する皆さん、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」「憲法を生かす京都の会」の皆さんなど、寒い日ではありましたが、12名に参加していただきました。JAL争議団からは神瀬麻里子さんに参加していただきました。



JAL争議団の神瀬さんは以下のように訴えました。 「昨年春に3人の元機長でスタートしたJAL被解雇者労働組合（JHU）は昨年12月に客室乗務員19名が加入し、22名の組織になった。JAL被解雇者労働組合は会社との交渉、そして東京都労働委員会での闘い、この2本立てで今、がんばっている。ところがJALは1月12日に予定されていた団体交渉をドタキャンしてきた。理由はオミクロン株新型コロナ感染対策である。しかし、昨年夏、緊急事態宣言が出ている時でさえ、JALは感染対策をしっかりした上で団体交渉を2回もおこなっている。それなのになぜ今、緊急事態宣言が出ていないのに、団体交渉拒否なのか。これは憲法で守られている団体交渉権を違反しているとしか思えない。憲法違反である。私たちJHUはこれに抗議している。JALは私たちのこの11年にわたる争議に正面から立ち向かってほしい。その願いを込めてここで宣伝をさせてもらっている。

● JHUとの団体交渉をドタキャン！

JAL争議団の神瀬さんは以下のように訴えました。 「昨年春に3人の元機長でスタートしたJAL被解雇者労働組合（JHU）は昨年12月に客室乗務員19名が加入し、22名の組織になった。JAL被解雇者労働組合は会社との交渉、そして東京都労働委員会での闘い、この2本立てで今、がんばっている。ところがJALは1月12日に予定されていた団体交渉をドタキャンしてきた。理由はオミクロン株新型コロナ感染対策である。しかし、昨年夏、緊急事態宣言が出ている時でさえ、JALは感染対策をしっかりした上で団体交渉を2回もおこなっている。それなのになぜ今、緊急事態宣言が出していないのに、団体交渉拒否なのか。これは憲法で守られている団体交渉権を違反しているとしか思えない。憲法違反である。私たちJHUはこれに抗議している。JALは私たちのこの11年にわたる争議に正面から立ち向かってほしい。その願いを込めてここで宣伝をさせてもらっている。



被解雇者労働組合（JHU）は昨年12月に客室乗務員19名が加入し、22名の組織になった。JAL被解雇者労働組合は会社との交渉、そして東京都労働委員会での闘い、この2本立てで今、がんばっている。ところがJALは1月12日に予定されていた団体交渉をドタキャンしてきた。理由はオミクロン株新型コロナ感染対策である。しかし、昨年夏、緊急事態宣言が出ている時でさえ、JALは感染対策をしっかりした上で団体交渉を2回もおこなっている。それなのになぜ今、緊急事態宣言が出していないのに、団体交渉拒否なのか。これは憲法で守られている団体交渉権を違反しているとしか思えない。憲法違反である。私たちJHUはこれに抗議している。JALは私たちのこの11年にわたる争議に正面から立ち向かってほしい。その願いを込めてここで宣伝をさせてもらっている。

● 「解決したい」との社長発言から、間もなく4年

今の社長・赤坂さんが社長に就任したのは4年前、2018年の4月である。就任と同時に赤坂社長は『この争議は早急に解決したい』そのように発言した。ところがそれからもう間もなく4年になろうとしているのに、JAL経営から具体的な解決策はまったく出てこない。企業の責任者の発言はとても重い。その後も株主総会の中で解決したいとの発言を繰り返しているが、言葉ばかりでまったく実行が伴っていない。私たちはこれからも職場

復帰、金銭解決を求めて闘っていく。

● 急逝した仲間の分まで

そんな中、悲しい出来事があった。この大手筋商店街の宣伝行動にも何度も来てくれた私たちの仲間、細井砂織さんが急逝された。どんなに無念であったことだろう。私たち J H U 2 2 名の組織が 2 1 名に減ってしまった。争議が始まってから命を落とした原告はこれで二人目である。J A L は一体何を望んでいるのか。私たちが死に絶えるのを待っているのか。そんなことはとても許すことはできない。勝利を見届けられなかった彼女たちの思いに報いるためにも、残った我々は諦めることなく勝利を目指す。



● 「安全より儲け」の稻盛式経営

企業が儲けるためにはいろいろなことがあるのだと思うが、商品を大事にする、それと同時に働く者を大事にすることが不可欠だと思う。働く者なしには企業は繁栄できない。営業もできない。J A L は破綻後、1 0 0 0 億円を超える利益を毎年稼ぎ出していた。しかし稻盛和夫氏が提唱した『安全より儲け』その意識が社員を少しずつ蝕んでいる。安全より大事なものがどこにあるのか。そんな中、飛行機の中では機内販売をおこなうのであるが、客室乗務員がお客様とのセールストークに夢中になって、立ったまま着陸してしまったケースが起きている。私たちがまず乗務員席に座って着陸しなければお客様の命は守れない。そしてまた、パイロットの中では『今日は航路上に台風がある、しかしそこはよけない。そこを突っきて行くので、皆さんは注意をしてサービスにあたってください。』そのような発言をする機長まで現れている。なぜ、揺れるくわかっている台風に突っ込んでいったかというと、避けて飛ぶと燃料費が 2 0 万円余計にかかるからだそうだ。



● 今こそ争議を解決し、安全な J A L に

今日もここ京都の上を J A L の飛行機が飛んでいる。J A L の社員は自分の関わる便だけは何とか、安全に飛ばしたいと毎日必死で働いてくれている。そんな現場から伝わってくるのは時間が足りない、人が足りない、部品が足りない、この 3 つの声である。J A L は安全な運航を第一に考えてほしい。そのためにも無謀にも解雇した 1 6 5 名のベテランをすぐに職場にもどしてほしい。その願いを込めて私たちの闘いのことを書いたチラシを今お配りしている。ぜひお読みいただきたい。」と訴えました。

チラシの受け取りも良く、横断幕をじっと見ていかれる方も多いかったです。高額のカンパをしていただいた方もありました。「J A L (の飛行機に乗るの)が好きなので、がんばってください。」と言われた方もありました。

次回 宣伝行動

(呼びかけ J A L 闘争を支える京都の会)

2 月 1 5 日 (火)

午後 2 時～3 時 伏見・大手筋商店街